

**介護施設・事業所における虐待防止研修**

**確認テスト**

**【解答】**

## 1. 虐待とは？

(1)	×	法律に定義された行為に該当しなくても「高齢者が他者から不適切な扱いにより権利利益を侵害される状態や生命・健康・生活が損なわれるような状態」に置かれていれば虐待となります。
(2)	×	非意図的であっても、上記の状況に該当すれば虐待となります。
(3)	×	虐待の発生要因は個人の性格や資質の問題だけでなく、教育・知識・介護技術等に関する問題や組織風土の問題等、組織の環境に目を向けることも必要です。

## 2. 高齢者虐待防止法

(1)	3	高齢者の尊厳の保持という大きな理念があり、尊厳の保持の実現を妨げる高齢者虐待の防止が極めて重要であり、そのために必要な措置を定めている。
(2)	2 ・ 3	使用者による虐待については、障害者虐待防止法で定義されている内容であり、高齢者虐待防止法には規定されていません。また、医療機関における高齢者への虐待については、高齢者虐待防止法の対象外となっています。仮に医療機関において医療従事者等による高齢者虐待があった場合には、高齢者虐待防止法ではなく、医療法の規定に基づき、医療機関の開設者、管理者が適正な管理を行っているか等について都道府県等が検査をし、不適正な場合には指導等を通じて改善を図ることになります。
(3)	4	養介護施設従事者等に対しては、「養介護施設従事者等による高齢者虐待を受けたと思われる高齢者を発見した際には、速やかにこれを市町村に通報しなければならない」とあり、通報が義務として定められています。  (第 21 条第 1 項)

### 3. 養介護施設・養介護事業における高齢者虐待の防止・対策

(1)	×	高齢者虐待の防止・発見・対応の責任は、従事者個々人の問題だけでなく、施設・事業者そのものにもある。
(2)	3	「職員本位」ではなく、「利用者本位」のケア体制の整備が養介護施設事業者等の責務である。
(3)	2	高齢者虐待への対策の基本は、「背景となる要因を分析」し、「組織的な取り組み」を行い、その中で「職員個々人が必要な役割を果たす」ことにある。情報は隠蔽せず、共有して、職員間の連携を高めていくことが大切である。

## 4. 身体拘束

(1)	3	身体拘束の弊害は「身体的弊害」「精神的弊害」「社会的弊害」である。  「精神的弊害」を「利用者・家族」と「スタッフ」に分けて、スタッフの精神的ダメージを「施設内弊害」とすることもある。
(2)	3	身体拘束における「緊急やむを得ない場合に該当する 3 要件」は「切迫性」「非代替性」「一時性」であり、これら 3 要件をすべて満たす状態にある場合のみ必要な手続きを実施した上で必要最低限の身体拘束を極めて例外的に許容されています。

## 5. 早期発見と通報義務

(1)	×	虐待の通報等を行う事は守秘義務に妨げられません。発見したら通報する義務があります。（「虚偽」や「過失」と考えるのに合理的な場合は除きます。）
(2)	×	虐待の大小にかかわらず、虐待を受けたと思われる高齢者を発見した者は通報する義務があります。

## 6. 身体的虐待（1）

(1)	×	身体的虐待である。投げたものが高齢者の身体に接触しなくても高齢者に向かって危険な行為や身体になんらかの影響を与える行為は身体的虐待に該当します。
(2)	×	身体的虐待である。本人が食事をとらないからと言って、たとえ高齢者のためといっても、強要することは身体的虐待に該当します。食事をとらない背景、認知症状、口腔内の状態や嚥下状態などをアセスメントし、対応する必要があります。

## 7. 身体的虐待（2）

(1)	×	痰が絡んでいない状況で喀痰吸引を行うと、カテーテルの刺激で気道から出血する可能性がある。喀痰吸引は、必要時に実施する処置であり、他のケアのついでに実施することではない。また、それにより必要以上の苦痛を与える行為は、身体的虐待と考えられる。
(2)	×	身体的虐待は、「身体に外傷が生じる行為」である。意図的かは関係なく、ましてや療養上の世話の有無も関係ないため、身体的虐待である。



## 8. 介護・世話の放棄・放任（ネグレクト）

(1)	○	ネグレクトである。必要な用具の使用を限定し、高齢者の要望や行動を制限させる行為はネグレクトに該当します。
(2)	×	ネグレクトである。本人の希望であるからと言って、何の働きかけもせずに高齢者を不衛生な状態におくことはネグレクトに該当します。何らかの手立てを講じ、本人へ働きかけを行う必要があります。

## 9. 心理的虐待

(1)	×	心理的虐待である。たとえ、本人には見せず、職員間で見せ合うだけでも、高齢者の尊厳を傷つける行為になり、心理的虐待に該当します。高齢者に対し親しみを込めて「かわいい」と声をかけた場合でも、馬鹿にされたと感じる方もいますので、敬う態度を忘れずに接しましょう。
(2)	○	心理的虐待である。意図している・していないに関わらず、これらの言葉は、高齢者の尊厳を傷つけますので、心理的虐待に該当します。

## 10. 性的虐待

(1)	×	性的虐待である。本人との間で合意が形成されていない性的な行為、又はそれを強要することは性的虐待に該当します。
(2)	○	性的虐待である。高齢者が羞恥心を害するような行為は、性的虐待に該当します。やむを得ず、その場で更衣させる場合は、周囲から見えないような配慮が必要です。

## 11. 経済的虐待

(1)	×	経済的虐待である。高齢者が全く着ていなかったとしても、高齢者が持っているものは財産にあたります。本人の合意なしに財産（衣類）を処分することは経済的虐待に該当します。
(2)	○	経済的虐待である。養介護施設事業者等に勤務しているという立場で、高齢者から金銭を借りることは立場を利用し金銭を借りることに該当するため、経済者虐待です。勤務外のプライベートな関係において借金したという理由は成り立ちません。

## 12. 身体的虐待（1）

①身体的虐待	ドアを閉めて出られないようにすることで高齢者の行動を制限する行為は、身体拘束による身体的虐待と考えられます。
③心理的虐待	部屋から出たいという気持ちを無視して、「出ちゃダメ」と威圧的に言うことは、言葉による身体拘束（スピーチロック）と考えられ、心理的虐待とも捉えられます。

## 13. 身体的虐待（2）

(1)	×	看護師の判断で薬の量を調整することはできません。薬の投与は「診療の補助」にあたるため、医師の指示が必要です。薬の量を調整する以外にできるケアはないか十分な観察とアセスメントを検討しましょう。
(2)	○	保健師助産師看護師法で規定されています。「療養上の世話」は、看護師の判断で独立してできる業務です。

## 14. 介護・世話の放棄・放任（ネグレクト）

②介護・世話 の放棄・放任	ナースコールを手の届かないところに置くという行為は、「必要な用具の使用を限定し、高齢者の要望や行動を制限させる行為」となり、ネグレクトに該当します。
③心理的虐待	「用もないのにナースコールを押さないで！」と怒鳴るという行為は、威嚇的な発言・態度となり心理的虐待に該当します。

## 15. 心理的虐待

①身体的虐待	嫌がる高齢者の手をおさえつける行為は、高齢者を乱暴に扱う行為であり、身体的虐待にあたります。自分（介護者）本位の行動を控え、高齢者の気持ちを考え行動しましょう。
③心理的虐待	ふざけて高齢者の髪の毛にリボンをたくさんつける行為や写真を撮って見せる行為は、高齢者の尊厳を傷つける行為になり、心理的虐待に該当します。高齢者に対し親しみを込めて「かわいい」と声をかけた場合でも、馬鹿にされたと感じる方もいますので、敬う態度を忘れずに接しましょう。



## 16. 性的虐待

②介護・世話の 放棄・放任	オムツ交換がしやすいという職員本位の理由でズボンを履かせておらず、これは本来の業務を怠っていると考えられることから、介護・世話の放棄・放任にあたります。ズボンを汚し洗濯が大変という理由で、家族の希望があったとしても、虐待にあたります。
③心理的虐待	高齢者に対し、強い口調で威圧的に接すること、また、高齢者の意思を無視するような発言や態度は、心理的虐待にあたります。高齢者の尊厳を傷つけないよう考え、対応するようにしましょう。
④性的虐待	寝たきりで、排便回数が多い高齢者に対し、介助がしやすいという理由で、下着のまま放置する行為は、高齢者に性的羞恥心を与えるため性的虐待にあたります。

## 17. 経済的虐待

②介護・世話 の放棄・放任	管理者が職員の虐待行為を見過ごすことは、職務上の義務を怠ることになり、介護・世話の放棄・放任（ネグレクト）にあたります。施設長など責任ある立場の人はこうした行為を見過ごすことなく毅然と対応することが必要です。
⑤経済的虐待	養介護施設事業者等に勤務しているという立場で、高齢者から金銭を借りることは立場を利用し金銭を借りることに該当するため、経済的虐待です。勤務外のプライベートな関係において借金したという理由は成り立ちません。

## 18. ストレスケア

(1)	×	「コーピング」とはストレスを解消するための対処である。対処方法は人それぞれであり、「音楽を聴く」「本を読む」「買物をする」などである。コーピングが成功すればストレスが解消できることになる。
(2)	×	ストレスが溜まった時におきるストレス反応は様々なものがあり、個人差がある。気持ちが落ち込んでしまう方もいれば、怒りとして表出する方もいる。また、ストレスを抱えているにも関わらず、本人が全く気付いていない場合もある。
(3)	×	衝動、思考、行動をコントロールすることで、「怒り」はコントロールできると言われている。「怒り」がなくなるわけではないが、「6 秒間」待つことで、理性を取り戻し、衝動的に「怒り」をぶつけないようにできるとも言われている。